

## 報告(3)

### 「社会的包摂に向けた伴走的支援の研究」



谷 晋二  
(文学部教授)

ご紹介ありがとうございます。文学部、応用人間科学研究科の谷です。私はチームリーダーとして伴走的支援というグループを担当しています。伴走的支援というのは、イメージをしていただくと、マラソンの伴走者というイメージを持っていただくと結構かと思います。つまりどこに行くのかということについては、走っている本人、つまり例えばクライアントさんであるとか当事者が決めるし、途中でやめる、あるいは休憩をするということについても当事者が決めていきます。我々は、それに付き添ってサポートをしていくというイメージです。そのグループの詳細について、今日お話しをしたいと思います。グループの研究は3つに分かれます。1つ目は直接的な支援をするグループです。ここでは直接的な支援プログラムの開発、それから2つ目は支援者支援、支援をする人を支援する研究を行うグループ、3つ目は情報移行、支援を継続・維持していくための方法に関する研究をするグループという風になっております。

## 伴走的支援研究チームの研究

### →直接的支援

- ・ 直接的な支援方法の開発

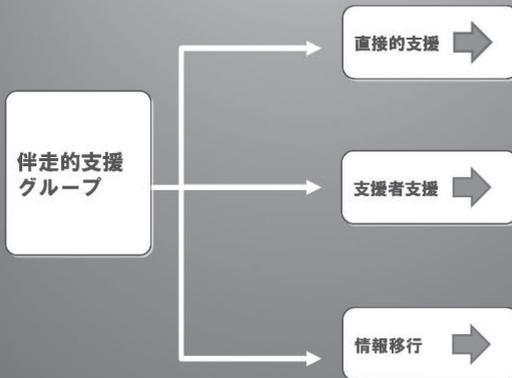
### →支援者支援

- ・ 支援をする人を支援する研究

### →情報移行

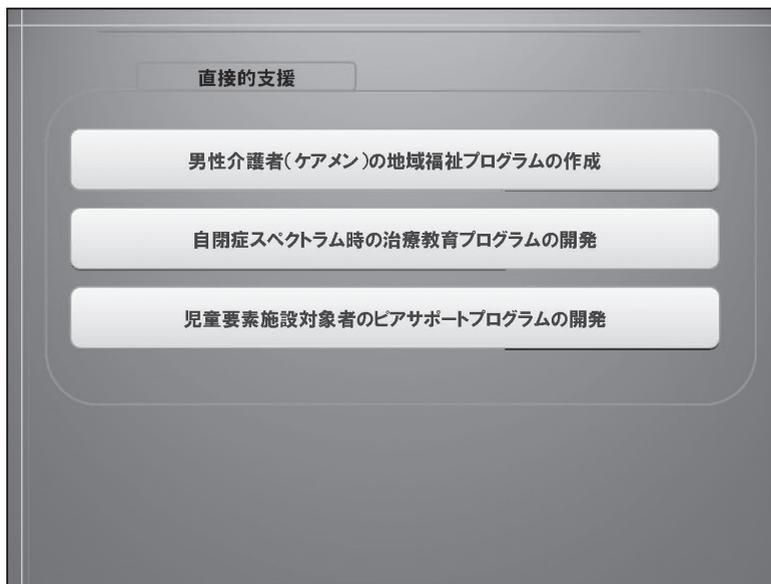
- ・ 支援を継続、維持していくための方法に関する研究

## 3つの領域

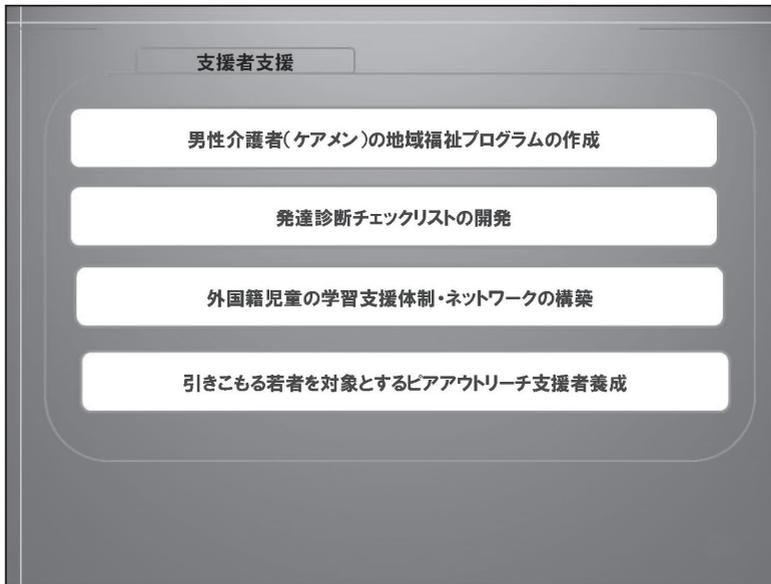


このように伴走的支援のグループが3つのプロジェクトに分かれています。それぞれについてはこれからお話していきます。まず、直接的支援ですが、直

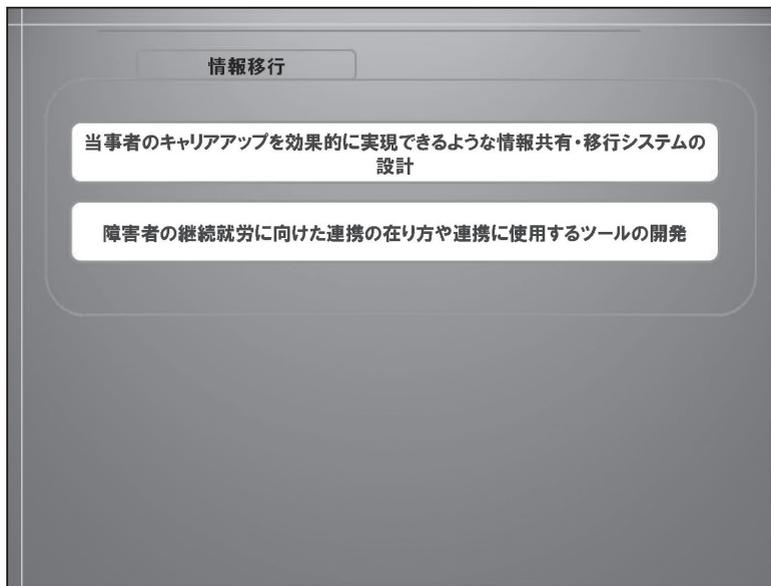
接的支援のグループでは男性介護者の地域福祉プログラムの作成をしている先生が参加しておられます。それから自閉症スペクトラムの子供の治療教育プログラムの開発をしているグループ、それから児童養護施設の対象者のピアサポートプログラムを開発しているグループがあります。



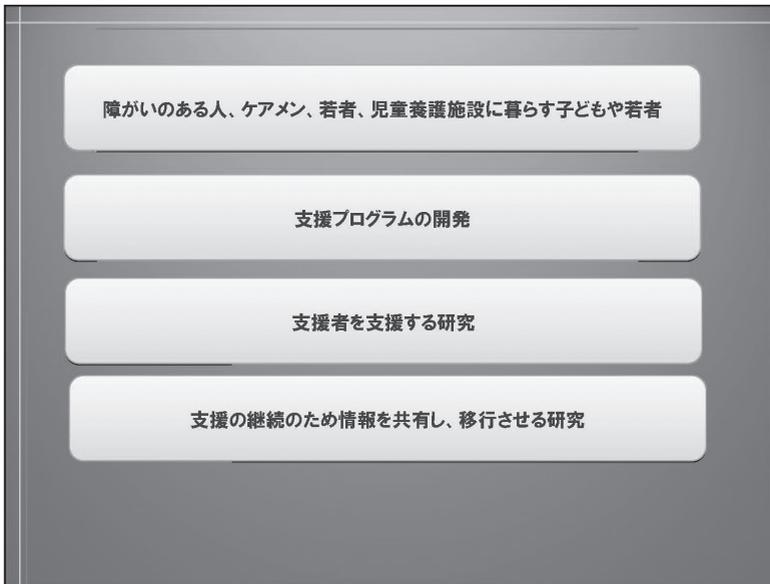
次は支援者支援をしているグループです。支援者支援をしているグループは、男性介護者の地域福祉プログラム、それから発達診断チェックリストの開発、それから外国籍児童の学習支援の体制を作ったり、ネットワークの構築をしたたりする研究をしているグループがあります。それから引きこもる若者を対象とするピアアウトリーチの支援者養成ということを検討しているグループがあります。



3つ目のグループは情報移行の研究をしているグループです。情報移行の研究をしているグループでは、当事者のキャリアアップを効果的に実現できるような情報共有・移行システムの設計を研究しているグループがあり、障害者の継続就労に向けた連携の在り方、連携ツールの開発をしているグループがあります。この3つのグループが伴走的支援を展開しています。



どんな人を対象としているかということ、障害のある人、ケアメン、若者、児童養護施設に暮らす子供を対象とし、支援プログラムの開発、支援者を支援する研究、支援を継続していくための情報を共有し、移行させるための研究というのを行っております。これらのプログラムを今日のお話にもありましたように、多くの研究者が関与して実行しているわけですが、主として探索的な研究と言いますか、新しいアイデアを見つけたり、新しいプログラムを作ったりするという研究が中心のように思います。私はプロジェクトリーダーとしてどういことをやりたいかと言いますと、エビデンスをきちんと出す、クオリティの高いエビデンスをきちんと出すプロジェクトに仕上げていきたいと思っています。クオリティの高いプロジェクトというのは、もちろんゴールドスタンダードとしてのRCTもあるわけですが、十分に計画された一事例、事例研究というものも重視しながら研究を進めていきたいと思っております。簡単ですが、ありがとうございました。



**稲葉** 谷先生、どうもありがとうございました。次のテーマは社会的包摂に向けた修復的支援の研究なのですが、この代表の中村正先生が現在、別の会議に出ておられまして、今向かっておられる最中なのですが、この時間には間に合わないということで、ビデオレターをいただいておりますので、それを中村先生の発表に代えさせていただきます。